

桜歯 ニュース

2026. 4. 15
VOL.230



日本大学歯学部ホームページ： <https://www.dent.nihon-u.ac.jp/>



「自主創造」の思いを胸にまっすぐに駆け抜ける! 学部長 飯沼 利光

皆さん、新学期が始まりました。そして、新入生の皆さん、日本大学歯学部ご入学おめでとうございます。日本大学歯学部は皆さんの歯科医療従事者になるという人生の目標に向け、全教職員がしっかりとサポートし、そして応援します。

今年の干支は丙午（ひのえうま）です。午年にあたるこの年は、行動力と情熱、そして“自分自身”を大きく輝かせることができる年とされています。さらに昔から馬車の引手として「馬」は生活の要であり、健康や豊作、発展の象徴とされてきました。今年一年が皆さんにとり充実した輝かしい年となることを祈念いたします。

ところで皆さんは、日本大学の教育理念である「自主創造」について考えたことはありますか。「自主創造」とは、自ら学び、考え、行動することで、新しい価値や道を切り開くことを意味します。この3つの言葉はとてもシンプルですが、置かれた状況や立場でその意味は変化をします。例えば、日々の学習になぞると、自ら学ぶ：学ぶことの目的を理解し準備する、自ら考える：効率的な勉強方法の探求や改善をする、自ら道をひらく：わからないことを克服して自分の知識とし、更なる疑問点を追求すると解釈することができます。

今年は是非皆さん一人一人が自分の心に「自主創造」の理念を抱き、それを糧に学生生活を有意義に過ごしてください。
(教授 歯科補綴学第Ⅰ講座)

新入生の皆さんへ

歯科医師への確かな 第一歩

学務担当 林 誠



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。これから始まる歯学の学びは、将来、患者さんの健康と生活を支える歯科医師になるための大切な第一歩です。歯科医学の知識と技術を確実に身につけるためには、低学年のうちに基礎をしっかりと固めることが重要です。この基礎は、共用試験、臨床実習、歯科医師国家試験、そして歯科医師としての実践へとつながります。日々の授業や実習を大切に、「歯科医師になる」という目標を常に意識して主体的に学んでください。また、仲間と切磋琢磨しながら学ぶことも大きな成長につながります。教職員一同、皆さんが社会に求められる歯科医師へと成長できるよう、全力で支援していきます。

(教授 歯科保存学第Ⅱ講座)

未来の歯科医師への第一歩！！

学生担当 菊入 崇



2026年は、冬季オリンピックやワールド・ベースボール・クラシック、そしてサッカー・ワールドカップなど世界的なスポーツの祭典が重なる、記念すべき年です。皆さんは、そんな特別な年に大学生活をスタートさせます。世界の舞台で活躍する選手たちも、最初から特別な存在だったわけではありません。誰もが初心者としてスタートし、日々の練習を積み重ねることで技術と精神力を磨き、やがて大きな舞台に立つ力を身につけてきました。これから本学で過ごす6年間は、それと同じで、立派な歯科医師となるために知識や技術を学び、人としての力を育てるための大切な研鑽の期間となります。日々の講義や実習、友人や先輩との交流、さまざまな経験の一つ一つが、将来皆さんが医療人として社会に貢献するための礎となります。充実ある6年間を過ごしてください。入学おめでとうございます。

(教授 小児歯科学講座)

継承と創造

日本大学歯学部同窓会

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。ようこそ日本大学歯学部へ。皆さんを新たに仲間としてお迎えすることは、私たち同窓会にとっても大変喜ばしく、本会を代表して、お祝いと歓迎の意を表します。また、ご家族や関係者の皆さまにも心からお慶び申し上げます。日本大学歯学部同窓会は、大正5年(1916年)4月15日に学祖である「佐藤運雄」先生が36歳で東洋歯科医学校を設立し、大正10年(1921年)4月15日に同窓会が発足し、本年で105年を迎えることとなります。その輝かしい伝統と実績は、在校生と卒業生に自信と誇り、そしてステータスをもたらします。同窓会は、「継承と創造」をビジョンとして掲げ、母校を思い、歯学部・在校生・卒業生に惜しみない多様な支援を続けます。そのために、次世代を担う皆さんへ明確なメッセージを発信できるよう対話を大切にいたします。夢と希望を抱き国民社会に貢献する歯科医師を目指してください。きっと、あらゆる場面で全国の同窓先輩の方々が必ずや笑顔で迎えてくださいます！

文責 同窓会会長代行 神尾 政治

探究心

後援会会長 織井 弘道



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。そして、これまで支えてこられたご家族の皆様にも、心よりお祝い申し上げます。

皆さんは今、新たな環境で歯科医学を学ぼうとしている事に期待と不安が入り混じっていると思います。伝統ある日本大学歯学部に入學した今、もはや周りは競い合う敵ではなく、共に成長し、高め合う存在です。

ストレートで進級し、最短で国家試験の合格を勝ち取り、一人前の歯科医師として羽ばたくことに向かって皆さんで一致団結して頑張りましょう。

これからの学生生活で重要な事は、解からない事に対して常に粘り強く、納得するまで自分で考えて答えを導き出す「探究心」をもつ事です。

我々後援会も皆さんが最高の環境で学び、成長できる様、全力で支え応援していきます。

新入生の皆様へ

学生会会長 赤松 孝則



新入生の皆さん、御入学誠にありがとうございます。本日より皆さんは、日本大学歯学部で学ぶ歯科医師国家試験を経て歯科医師になる道が見えてくるでしょう。しかし大学は、国家試験

合格のみを目的とする場ではありません。歯科医学という学問に向き合いながら、大学生活の中で多くの経験を重ね、自分自身を形づくる時間でもあります。大学生は、多くの失敗を経験することが許される立場にあります。社会に出る前のこの時間に、失敗や恥ずかしい思いを恐れず、一歩踏み出してみてください。その積み重ねが、いつか必ず自分を支える力になります。不安なときは先輩や先生方を頼りつつ、最後は自分の意志で進む道を切り開いてください。皆さんの学生生活が、実り多いものになることを心から願っています。

(第6学年)

クラブ協議会より

クラブ協議会会長 三浦 尚哉



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。クラブ協議会を代表し、心よりお祝いを申し上げます。今皆さんは大学という新しい環境に胸を躍らせる一方、不安を感じている方もいるかもしれません。

ですが皆さんの未来はとても明るく、そして希望に満ち溢れたものであると私は思っております。充実した大学生活となるよう、一緒に頑張っていきましょう。

早速ですが、本学でのクラブ活動は皆さんに数多くの仲間との出会いをもたらし、目標に向かって共に挑戦できる場を作り、学業だけでは得られない経験や成長を与えてくれます、ですので、ぜひ積極的にクラブ活動に参加し、多くの挑戦と交流を通して自分らしい学生生活を築いていってください。皆さんのこれからの大学生活が実り多く、そして充実したものとなることを心より願っています。

(第5学年)

事務局の紹介

【教務課】 入学時の学生証の発行から歯科医師国家試験受験に関する手続きまで、授業や試験などの学修に関する事務手続きを扱っています。学修上必要な事項は『学部要覧』や『授業計画(シラバス)』に記載してありますので、これらによく目を通してください。また、授業や試験に関する連絡はNU-Mail等で行います。そのため、常にNU-Mail等を確認する習慣を身につけてください。

【学生課】 快適で充実した学生生活を送るために様々な支援を行っています。窓口では通学証明書や学割の発行、忌引届や住所変更届などの諸届けの扱い、各種奨学金の手続きなどを行っています。また、クラス懇親会に対する助成手続、学生会やクラブ活動に関する相談や助言なども行っています。さらに、球技大会、桜歯祭、リーダーズキャンプ、全日本歯科学生総合体育大会(歯学体)などの学生行事にも携わっています。

【学生支援室】 皆さんが学生生活を過ごしていく上での様々な問題について、学生の立場に立って相談に応じています。「こんなことを相談するのは恥ずかしい」などと気がねせず、気軽に訪問してください。6年間の学生生活では、辛いこと、困ったこと、誰かに話を聞いてほしいこと、様々なことがあると思います。他人にとっては些細に思えることでも、本人にとっては、とても大事なこともあります。相談員は、日本大学本部学生支援センターより、臨床心理士が配置されています(火～金曜日)。守秘義務のある専門家が、皆さんの立場になって話を聞きますのでプライバシーは厳守されます。他者に話をするすることで、気持ちが整理されたり、新たな視点に気付くことがあるかもしれません。学生生活に何らかの困難を感じた時、選択肢の一つとしてください。

【保健室】 学生と教職員の皆さんが、大学生活や職場において心身共に健康で充実した時間が過ごせるよう、学校医兼産業医(水曜日午前)、精神科医(第2・4木曜日午後)、看護師(平日、土曜不定期)が、健康の保持増進のための支援をしています。学生の皆さんは、日頃より自身の体調や健康状態に関心を持ち、健康管理に心がけていただくと共に、生活の中で健康に関する悩みや相談が生じた場合には、いつでも保健室(3号館1階)に相談をしてください。

【図書館】 学修、研究を支援するため、学術情報や学修スペースを提供します。生命科学分野の図書、雑誌を中心に収集、整理、提供をしています。電子ブック、検索データベースなどのオンライン資料も充実しており、学外からの利用が可能です。ラーニングコモンズ、グループスタディールームを設置し、図書館資料の他、インターネット、ホワイトボード等を利用した自由な学びをサポートします。また、利用者と資料を結ぶため、図書館員による相談サービスを提供しています。図書館ウェブサイトから各種の申込みをオンラインで行うことが可能です。

クラス主任・担任メッセージ

第一学年

主任	近藤 真啓	教授	法 医 学
担任	佐藤 紀子	准教授	健 康 科 学
担任	渡辺 孝康	准教授	化 学
担任	石井 亮	助教	歯科保存学Ⅰ
担任	新井 聡美	助教	歯科補綴学Ⅲ

近藤主任：ご入学おめでとうございます。これから始まる新生活では、多くの学びや出会いが皆さんを待ち受けています。まずは新しい環境に慣れ、主体的に学習する姿勢を身につけましょう。そして、さまざまな経験を重ねながら、自分を大きく成長させてください。この6年間で、皆さんの未来のために実り多き時間となるよう願っています。

佐藤担任：日大歯学部へようこそ！効率性も大切ですが、自分にとって意味があると思えることを見つけ、行動してください。まずは、自分を知ってください。自分を知るためには他者を知ることが必要です。たくさんの人と接して、周囲に目を配り、世界をひろげてください。

渡辺担任：第1学年の学びは教養系科目からはじまり、歯学部における学修の基礎を形成していきます。初めは困難ばかりでも、できることを一つずつ着実に積み重ねて、充実した学修となるよう歩んでいきましょう。高校までとは異なる「大学での学び」を意識して下さい。

石井担任：ご入学おめでとうございます。歯学では基礎の理解が臨床の力に直結します。才能より大切なのは学ぶ習慣です。毎日の小さな復習の積み重ねが自信になります。疑問は仲間や教員と共有し、学びのきっかけに変えていきましょう。“Do or Do not, There is no try.”



新井担任：本学への入学は皆さんの意志であり、ご家族の方のこれ以上ない理解と協力によるものです。これからの大学生活、勉強も部活もやる時はやる。他人のために尽くす。そして遊ぶときは大いに遊ぶ。何より感謝を忘れずに大学生活を送ってください。

第二学年

主任	納村 泰弘	教授	歯科矯正学
担任	湯口 眞紀	専任講師	解剖学Ⅱ
担任	平場 晴斗	専任講師	歯科理工学
担任	森山 鮎子	助教	歯科放射線学

納村主任：2年生では基礎歯科学が中心となり学ぶ量も増えますが、1年の経験で学生生活にも慣れてきた頃です。後輩の良い手本となれるよう、入学時の気持ちを思い出しながらメリハリある1年にしていきたいと思います。

湯口担任：新しい一年の始まりです。昨年よりも一歩成長した自分を目指し、日々の学びを着実に積み重ねてください。講義や実習、学校行事にも主体的に取り組み、仲間と支え合いながら、2年生としての自覚と成長を実感できる充実した一年にしていきたいと思います。

平場担任：進級おめでとうございます。第2学年は、歯科医師となるために必要な基礎をしっかりと身につけ、これからの学びの基盤を固める大切な時期です。日々の学びを大切にするとともに、友人との関わりや健康にも気を配りながら、充実した一年にしていきたいと思います。

森山担任：進級おめでとうございます。今年度から新たにクラス担任を務めさせていただきます。第2学年は第1学年と比べて、歯科医師に必要となる専門的な基礎知識を学ぶこととなります。学業は少し大変になってくるかと思いますが、1年間一緒に、着実に歩んでいきましょう。

第三学年

主任	松本 邦史	教授	歯科放射線学
担任	藤原 恭子	准教授	解剖学Ⅰ
担任	田邊奈津子	准教授	生 化 学
担任	岩崎 太郎	専任講師	歯科補綴学Ⅲ

松本主任：いよいよ臨床系授業が本格的にスタートします。専門的な学びに触れる中で、将来の目標や理想とする歯科医師像が少しずつ見えてくるはずですが、これまで皆さんが懸命に培ってきた歯科基礎医学の知識は、何物にも代えがたい一生の土台となります。その強固な土台の上に、自信を持って自分だけの大きな塔を築き上げてください。

藤原担任：第3学年ではいよいよ臨床系の講義や実習が主体となってきます。これまで学んだ基礎科目の知識が重要な土台となりますので、時々振り返りながら進んでいきましょう。皆さんが良く学び、充実した学生生活を送れるよう、精一杯サポートさせていただきます。

田邊担任：ご進級おめでとうございます。3年生になって勉強や部活が忙しくなるとは思いますが、自分の時間の使

い方について考え、行動し、充実した学生生活を送って欲しいと思っています。担任として皆さんをサポートしたいと考えていますのでよろしくお願いいたします。

岩崎担任：進級おめでとうございます。第3学年では臨床科目が多くなり、新たな興味や関心が生まれる一年になることと思います。辛いことや大変なこともあると思いますが、将来の自分を思い描きながら、前向きに取り組んでいきましょう。担任一同、引き続き皆さんを最大限サポートしていきます。

第四学年

主任	川戸 貴行	教 授	衛 生 学
担任	篠塚 啓二	准 教授	口腔外科学Ⅰ
担任	石山 未紗	専任講師	小児歯科学
担任	伊藤 恵吾	助 教	歯科補綴学Ⅲ

川戸主任：第4学年の皆さん、進級おめでとうございます。いよいよ、共用試験を受験する学年になりました。学生間の協力や教員との目標共有を通じて、コミュニティー（共同体）としての力を発揮する場面が多々あります。日々の学び、健康管理、コミュニケーションを大切に、全員でこのハードルをクリアしていきましょう。

篠塚担任：本年度よりクラス担任を務めます。皆さんにはCBT・OSCEという臨床実習へ進むための大切な共用試験が待っています。これは単なる試験ではなく、歯科医師になるための基礎を築く重要な節目です。目標意識を持って学び、充実した一年にしましょう。全力でサポートします。

石山担任：第4学年は、臨床に関わる実習や講義が増えています。また、クラブ活動や学校行事等では中心となっていく学年になります。勉強や課外活動を一生懸命に行い、充実した大学生活を過ごすようにしましょう。何か困ったことがあればいつでも相談しに来て下さい。

伊藤担任：進級おめでとうございます。今年度も引き続き担任を務めます。4年生はCBTやOSCEといった今までとはまた違う、大きな試験が控えている学年になります。部活動でも中心となる学年でしょうから、どちらも全力で取り組み、5年生の院内実習に向けて準備をしていきましょう！

第五学年

主任	米永 一理	教 授	摂食機能療法学
担任	二宮 禎	准 教授	解剖学Ⅰ
担任	三澤麻衣子	専任講師	医療人間科学
担任	白土 博司	専任講師	口腔外科学Ⅱ

米永主任：第5学年はいよいよ臨床実習です。他の歯科医師の手技や振る舞いを観察できる機会は、歯科医師人生でも多くはありません。自分ならどうするかを考えながら、知識と技術を吸収してください。また国試に向け、楽しみつつ切磋琢磨できる仲間（クラス）を築き、十分な勉強量を確保しましょう。憧れの歯科医師までもう少しです！

二宮担任：第5学年では臨床実習が始まり、これまで以上に歯科医師を目指す意欲が高まることと思います。同時に、医療人としての自覚を持ち、健康管理を徹底して欠席がないように努めて下さい。そして、第6学年への進級とその先の国家試験合格を常に意識しながら、充実した学生生活を送ってください。

三澤担任：進級おめでとうございます。プラスのイメージは良い結果を生み、努力を続ける人は最後に実を結ぶものです。第5学年では前向きな気持ちを大切に努力を重ね、自分の納得する姿へ成長して欲しいと思います。これからも共に頑張りましょう。

白土担任：第5学年は診療参加型臨床実習、歯科学統合演習Ⅴが学修の主体となり、後期には歯学生共用試験（CPX、CSX）の受験が控えています。4年次までに修得した知識を練成し、歯科臨床の実際と結びつけ、2年後に控える歯科医師国家試験受験に向けて頑張ってください。

第六学年

主任	野間 昇	教 授	口腔内科学
担任	馬谷原琴枝	准 教授	歯科矯正学
担任	浦田健太郎	専任講師	歯科補綴学Ⅰ
担任	角田麻里子	助 教	病理学
担任	安川拓也	助 教	歯科保存学Ⅱ

野間主任：いよいよ最終学年となり、歯科医師国家試験に向けた勝負の一年が始まります。これまで積み重ねてきた努力を自信に変え、目標は「全員合格」です。国家試験までラストスパート。教員一同、最後まで全力で支援します。皆さんも自分を信じ、最後まで共に走り抜きましょう。

馬谷原担任：いよいよ集大成の1年となります。国家試験へのプレッシャーを感じることもあるかもしれませんが、一日一日を大切に、悔いのないよう全力で取り組んでください。私たちもサポートしますので、何かあればいつでも来てください。心から応援しています。

浦田担任：進級おめでとうございます。本年度からクラス担任に配属されました。6年生は学生生活の集大成です。これまでの日々による知識や経験を存分に発揮して充実した1年にしましょう。精一杯サポートして参りますので、困ったことがあればいつでもご相談ください。

角田担任：進級おめでとうございます。本年度は長いような、短いような、これまでの5年間とはまた少し違った生活環境にもなります。その際、不安な事、将来の事、特に用事が無くても訪ねてもらって構いません。みなさんの学生生活の一助になればと思います。

安川担任：今年度より担任を務めます安川です。いよいよ最終学年。皆さんにとって大切な一年が始まります。不安もあると思いますが、心身ともに充実した一年間を過ごし、学部生活の集大成として国家試験に臨めるよう私もサポートしていきます。共に頑張りましょう。



102名に学士(歯学)の学位記を伝達



3月25日、本学部本館大講堂(創設百周年記念講堂)において、学位記伝達が行われました。飯沼歯学部長から学位記が伝達され、併せて学長賞、優等賞、学部長賞等の授与が行われました。同日、大学院歯学研究科修了者30名にも本学部4号館大会議室にて、博士(歯学)の学位記が伝達されました。



澤田昌志さんに学長賞

日本大学は各学部において、在学中の学業成績が最も優れていた者に学長賞を授与しています。本年度の受賞の栄誉に輝いたのは澤田昌志さんでした。



澤田昌志：この度は学長賞という栄誉ある賞を賜り、身に余る思いです。日々の研鑽を継続できたのは、熱心にご指導くださった先生方、切磋琢磨してきた仲間、そして支えてくれた家族の存在があってこそであり、心より感謝申し上げます。本受賞を励みとし、謙虚な姿勢で臨床における確かな実践力を磨くとともに、学術的な視点を備え、歯科医学の発展にも貢献できる歯科医師へ成長してまいります。

等賞を頂けたのは先生方、友人、家族、様々な方の支えがあったからこそであり、この場をお借りして心より感謝申し上げます。今後はこれまでの学びを糧に、お世話になった方々に少しでも恩返しができるよう精進して参ります。ありがとうございました。



浅本実樹：この度、優等賞という栄誉ある賞をいただき、大変光栄に思います。日々の学びを支えてくださった先生方や仲間、家族の支えがあってこそ得られた結果だと感じています。今回の受賞を励みに、これからも知識と技術の向上に努め、将来は社会に貢献できる歯科医療人を目指して努力を重ねていきたいと思ひます。



令和7年度卒業生3名に優等賞

学業成績が学長賞に準ずる者に授与されるのが優等賞です。本年度は天野真未さん、二ツ谷和那美さん、浅本実樹さんの3名が受賞されました。



天野真未：この度はこのような賞を頂けてとても嬉しいです。私は非常に不器用で、この6年間は決して順風満帆ではありませんでしたが、今まで生きてきた人生で1番濃いものでした。勉強だけでなく、人間関係やこれから生きていくのに必要な術を学ぶことができ、今後活かしていけたらいいなと思っています。私のことを支え、見守って下さった先生方、家族、友人に感謝しています。ありがとうございました。

二ツ谷和那美：この度は名誉ある賞を頂き大変光栄に思います。コロナ禍から始まった大学生活でしたが、文武両道を目指しに充実した6年間を過ごすことができました。優



歯学部長賞を9名が受賞

優等賞に準じた功績を修めた者に授与される部科校長賞には、学業部門、学術・文化部門、スポーツ部門、善行部門、その他があります。本年度は、学業部門：池澤桃香さん、神林真由さん、木許美育さん、工藤遥さん、日澤優斗さん スポーツ部門：二ツ谷和那美さん その他：佐藤太さん、清水一帆さん、西出怜央さん、日澤優斗さんの9名が受賞されました。



歯学部同窓会会長賞を6名が受賞

人物優秀で、学業・体育などの部門で優秀な成績を修め本学部の名誉を高揚した者、ならびに学生生活活動の推進に著しく貢献し、本学部の発展に功績が認められた者に授与される同窓会会長賞を、石塚悠希さん、市石茉愛さん、北畠有里子さん、国岡真由さん、佐藤智尋さん、米山英介さんの6名が受賞されました。



卒業に際して

令和7年度 卒業生代表 西出 怜央

歯学部を卒業するにあたり、学年代表としてご挨拶申し上げます。

コロナ禍の入学以来、講義や実習、臨床を通して多くの学びと経験を積むことができました。

個人的には、桜歯祭実行委員長、学生会会長、国試対策委員と勉強以外の大きな糧となる経験をさせていただきました。

壁にぶつかる度「想定外は想定内」の言葉を胸に仲間と励まし支え合い、模索しながら乗り越えてまいりました。この絆を大切に、人の心の痛みのわかるあたたかい人間になりたいです。

長きに渡り熱心にご指導くださった先生方、職員の皆様、そして叱咤激励支えてくれた大切な家族に、心より感謝申し上げます。日本大学という学び舎からの卒業を誇りに思い、社会に貢献できるよう一層努力してまいります。

今後ともご指導ご鞭撻、よろしくお願いいたします。



新教授 紹介

歯科医療の未来を支える 人材を育てる



小泉 寛恭

このたび、日本大学歯学部歯科理工学講座の教授を拝命いたしました小泉寛恭です。

これまで私は、歯科材料や補綴治療を中心に、研究と臨床、そして教育をつなぐ仕事に取り

組んできました。研究室で得られた知識や技術を、どのように実際の歯科医療や学生教育に生かしているかを、常に意識してきたつもりです。

歯科医療は、材料や技術の進歩がとても早い分野です。一方で、その根底にあるのは「患者さんにとって安全で、信頼できる治療とは何か」を考え続ける姿勢だと考えています。学生の皆さんには、知識を覚えるだけでなく、自分で考え、判断し、周囲と協力できる歯科医療人へと成長してほしいと願っています。

教育の場では、歯科医師だけでなく、歯科技工士や歯科衛生士など、多職種と連携することの大切さも伝えていきたいと考えています。将来、現場に出たときに「一緒に働きたい」と思われる人材を育てることが、大学の役割の一つだと思うからです。

また、国際的な基準づくりや医療制度に関わってきた経験を生かし、歯科医療が社会とどのようにつながっているのかを、できるだけ身近な話題として学生に伝えていきたいと考えています。

保証人の皆様にとっては、お子様がどのような環境で学び、成長していくのが何より大切な関心事だと思います。本学での学びが、確かな専門性と人としての力を育む時間となるよう、教職員の一人として誠実に取り組んでまいります。どうぞよろしくお願いたします。 (教授 歯科理工学講座)

【略 歴】

平成7年日本大学歯学部卒業。平成13年日本大学大学院歯学研究科修了。日本大学歯科補綴学第Ⅲ講座助手、専任講師、准教授、歯科理工学講座准教授を経て、令和8年4月本学教授。博士(歯学)。56歳。

新たな法医鑑定法の開発を 目指して



近藤 真啓

令和8年4月1日付で、法医学講座の主任教授に就任いたしました。当講座は昭和39年に開設されて以来、法医学の発展に寄与してきた、歯科大学の中でも長い歴史を誇る研究室です。その

歩みを受け継ぐことになり、身の引き締まる思いです。

法医学の主要な役割は、死因究明、犯罪捜査、そして個人識別です。

歯は人体の中でも保存性に優れ、個人識別において重要な資料のひとつです。昭和60年8月に発生した日航機墜落事故や、平成23年3月の東日本大震災における犠牲者の身元確認では、歯の形態や歯科治療痕に基づく歯科所見が大きな成果をあげてきました。自然災害が頻発する昨今、歯科法医学の重要性は一層高まっています。また現在、DNA(ゲノム)情報も個人識別の有効な手段として活用されていますが、歯はそのDNAの採取源としても有用です。

私は本学部を卒業後、分子生物学的手法を用いた基礎医学研究に従事してきました。遺伝子の発現調節とそれにより生み出される分子の多様性が、脳の発達や神経可塑性を規定していることを明らかにする過程で、ゲノム研究に強い関心を抱くようになりました。法医学分野に研究の場を移してからは、これまでの経験と技術を生かし、歯および口腔組織由来のDNAのメチル化を指標とした年齢推定法の開発に取り組んできました。さらに現在、児童虐待の被害を客観的に証明するためのゲノム内分子マーカーの探索も行っています。

亡くなられた方の身元を明らかにし、ご遺族のもとへ返還すること、また、犯罪被害者を救済することは、法医学に携わる者の使命です。今後も研究と実務を通じ、その職責を果たしていきたいと考えております。

近年、国家試験において法医学の知識が問われるようになり、歯科医師に求められる役割が拡大しつつあります。基礎医学と臨床歯科医学の双方の知識を必要とする「法医学」の教育を介し、次世代を担う医療人の育成にも尽力していく所存です。

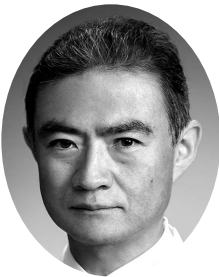
(教授 法医学講座)

【略 歴】

平成5年日本大学歯学部卒業。平成9年日本大学大学院歯学研究科修了。東京都医学研究機構東京都神経科学総合研究所研究員、日本学術振興会特別研究員、ダナ・ファーマー癌研究所(米国)リサーチフェロー、日本大学専任講師、准教授を経て、令和8年4月本学教授。博士(歯学)。57歳。

口腔外科学第Ⅰ講座の 教授就任

丸岡 豊



このたび令和8年4月1日付で、日本大学歯学部口腔外科学第Ⅰ講座を担当させていただくこととなりました丸岡豊と申します。長い歴史と伝統を有する

本学の一員として教育・研究・診療に携わる機会をいただきましたことを、大変光栄に存じております。

私は東北大学を卒業後、東京医科歯科大学（現・東京科学大学）、癌研究会癌研究所、米国バンダービルト大学ハワードヒューズ研究所で研究に携わったのち、東京医科歯科大学を経て国立国際医療センターに赴任し、19年間主に病院歯科口腔外科の現場で診療に携わってまいりました。口腔外科は顎や口の中の病気や外傷などを扱う分野であり、近年は高齢化や医療の高度化に伴い、全身疾患を有する患者さんが安全に歯科治療を受けられるよう、医科と歯科が連携して口腔の健康を守る役割も重要となっています。こうした医療の現場で培ってきた経験を生かし、本学においても臨床と研究の両面から口腔外科の発展に寄与したいと考えております。

大学は、学生の皆さんが将来の歯科医師として成長していく大切な場であると同時に、新しい知識や技術を生み出す研究の場でもあります。確かな臨床力を基盤としながら、学生や若い先生方が口腔外科の魅力を感じ、自ら考え学び続けていく環境を大切にしていきたいと思っております。また、医療の現場で求められる広い視野を持った歯科医師の育成にも力を注いでいきたいと考えております。

これまで私は、大学、研究機関、そして病院歯科という異なる環境で研究と臨床の双方に携わってまいりました。こうした経験と視点を、本学が大切にしてきた医学的歯学の理念と結びつけ、講座や本学の発展に少しでも貢献できるよう努めてまいります。今後ともご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、学生の皆さんや教職員の皆様とキャンパスでお会いできることを楽しみにしております。

(教授 口腔外科学第Ⅰ講座)

【略歴】

平成2年東北大学歯学部卒業。平成6年東京医科歯科大学大学院歯学研究科修了。東京医科歯科大学助手、講師、国立国際医療研究センター病院歯科・口腔外科診療科長、同院副院長、国立健康危機管理研究機構臨床研究センター産学連携推進部次長を経て、令和8年4月本学教授。博士(歯学)。61歳。

教授就任にあたって

日野 峻輔



令和8年4月1日付で、口腔外科学第Ⅱ講座主任教授を拝命いたしました。本学を卒業後、埼玉医科大学総合医療センター歯科口腔外科に入局し、24時間体制の救急医療を含む口腔顎顔面

外科診療に長年従事してまいりました。途中、スイス・ベルン大学医学部頭蓋顎顔面外科学講座(Prof. T. Iizuka)に留学し、骨接合および骨造成分野における臨床・研究に従事する機会を得ました。この度、母校である本学において口腔外科学第Ⅱ講座を担当する機会をいただき、大変身の引き締まる思いであります。本講座は長い歴史と伝統を有する講座であり、その歩みを受け継ぎながら、時代の要請に応える口腔外科診療と教育・研究の発展に尽力いたします。

前職では、幅広い口腔外科疾患の診療を担当してきたほか、特に顎顔面骨骨折に代表される数多くの外傷症例の治療に携わり、顎骨再建からインプラントに至る咬合再建をライフワークとして取り組んでまいりました。また、薬剤関連顎骨壊死(MRONJ)に代表される医科歯科連携が重要となる疾患の手術にも積極的に取り組んでまいりました。これまで在籍した野戦病院のような医学部附属病院の臨床現場とは異なり、歯学部口腔外科では求められることが大きく異なるかと思えます。今後は本学歯科病院において、歯科医師だからこそ担うことのできる口腔外科診療をさらに発展させるとともに、日本大学病院との連携を一層強化し、安全で質の高い幅広い口腔外科診療の提供に努めてまいります。昨今、全国的な口腔外科医の減少が指摘されております。教育の充実を通じて、この分野を志す若い先生方にとって魅力ある環境を整え、専門医取得を含めた口腔外科の発展を担う人材の育成に力を注いでまいります。高度化する医療環境の中で歯科病院としての使命を果たすとともに、地域医療への貢献と口腔外科学のさらなる発展に努め、本学ならびに歯科界の発展に尽力してまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

(教授 口腔外科学第Ⅱ講座)

【略歴】

平成20年日本大学歯学部卒業。平成26年埼玉医科大学大学院医学研究科修了。埼玉医科大学総合医療センター助教、講師、ベルン大学医学部頭蓋顎顔面外科学講座留学、准教授を経て、令和8年4月本学教授。博士(医学)。43歳。

新教授

紹介

教授就任あいさつ



一杉 岳

近代の麻酔は、1846年に歯科医師W・モートンらが治療の一端として初めて公開して以来、大きく発展した。麻酔は手術の痛みを取り除くために生まれた

が、病気を治すものではなく、意識を取り去り、呼吸も止め、循環をも乱す。つまり、麻酔は身体にあえてリスクをもたらす。医療の特徴として「ベネフィット」と「リスク(危険性)」の関係がある。ベネフィットとはサービスや製品を利用することで顧客が得られる利益、恩恵、プラスの効果を目指し、単なるメリットではなく、それを使うとどう良くなるか、どんな良い状態になれるのかという顧客にとっての最終的な良い結果や満足感を意味する。麻酔のベネフィットは、外科の全てのリスクから患者さんを守ることである。そのため、患者さんは麻酔に対して絶対的な安全を期待する。麻酔科医は麻酔と手術の両方のリスクを背負いつつ、それをどのように回避し、軽減させるのかを常に考えている。しかし、リスク管理はリスクを排除することであるが同時に「リスクを引き受ける」ことでもある。この麻酔科医の仕事は航空機パイロットに例えられることがある。だが、私の感覚では、青空とは対照的に、音も光も届かない深い海底に“眠る”患者さんと二人っきりで素潜りのまま、流れのうねりや寒さ、不気味な深海魚(皆様のご想像で)にじっと耐え、時が許されたら海面へ浮上しやっと呼びかける感じである。

モートンの墓碑には【Before whom, in all time, Surgery was agony; By whom, pain in surgery was averted; Since whom, Science has control of pain.】と麻酔について3行で書かれている。ここにある“Science”は「基礎から一定領域の対象を客観的な方法で系統的に研究する活動。また、その成果の内容。」を意味する。

今後、大学講座として麻酔のScienceを牽引し、臨床では「逃げず、踏み止まり、見届ける」しんがり、そして先輩方の築かれた日本大学の伝統と教育を後輩たちへ引き継ぐよう努めてまいります。

(教授 歯科麻酔学講座)

【略歴】

平成13年日本大学歯学部卒業、聖路加国際病院口腔外科、ドイツ歯科医師免許取得、フライブルク大学顎顔面外科、九州大学大学院歯学研究科麻酔学分野講師、令和7年日本大学准教授、令和8年4月本学教授、博士(歯学)。52歳。

臨床・研究・教育
そして社会貢献

高見澤 俊樹



令和8年4月1日付で、本学歯科保存学第I講座の教授に就任いたしました。本講座(保存学教室修復学講座)の歩みは、東洋歯科医学校創立当時

にまで遡ります。その後、幾度かの組織改編が行われ、1966年に現在の形となりました。本講座は、歯科の二大疾患の一つである齲蝕や、象牙質知覚過敏症、さらに第三の歯科疾患として注目を集めるTooth wearや変色歯等について、臨床的な観点から体系的に教育を行うとともに、治療の実践および関連研究を精力的に行っています。

私は1995年に本学を卒業後、学生時代にお世話になった先生や先輩を頼り、当講座に研究生として入局しました。当時の目標は基本的に忠実なスタンダードな治療技術を身につけることで、いずれ開業するつもりでした。これほど長く大学に身を置くことになるとは想像しておらず、人生は不確定要素が多いことを実感しております。これまで臨床や研究において様々なことにチャレンジしてきましたが、そこには必ず影響を与えてくれる人との出会いや、その時でなければならぬタイミングがありました。新島村で1年間常勤医として離島診療を行ったことも、米国留学も、あの時間、あの場所という必然が今の自分を形成したのだと思います。

また、士業や研究者に重要とされる資質の一つに「GRIT」があります。社会的な成功において最も重要なのは優れた才能やIQではなく、長期的な目標に向けた『情熱』と『粘り強さ』です。すなわち、Guts(困難に立ち向かう力)、Resilience(失敗や挫折から立ち直る力)、Initiative(自ら進んで取り組む力)、Tenacity(最後までやり遂げる粘り強さ)です。

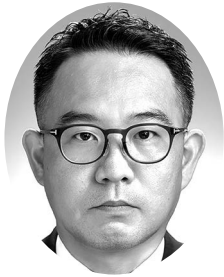
これまでは私自身、臨床および研究に情熱を傾けてきましたが、大学人としての残りの時間は学生や医局に在籍する先生方の教育に力を注ぎます。後進の育成と今後歯科界を支えていく若い世代のために尽力し、日本大学歯学部および社会に貢献できるような仕事をしていきたいと思っております。

(教授 歯科保存学第I講座)

【略歴】

平成7年日本大学歯学部卒業。日本大学助手、助教、専任講師、准教授を経て、令和8年4月本学教授。博士(歯学)。57歳。

伝統を礎に、口腔機能を支える 歯科補綴学の発展へ



飯田 崇

このたび令和8年4月1日付で、日本大学歯学部 歯科補綴学第Ⅱ講座 主任教授を拝命いたしました。本講座は、初代大木一三先生、二代目石上友彦先生、三代目萩原芳幸先生へと受け継がれてきた

伝統を有する講座であり、その系譜を継ぐ四代目の主任教授として職責を担うこととなりました。重責に身の引き締まる思いであると同時に、先人の先生方が築いてこられた伝統を大切にしながら、本講座のさらなる発展に尽力する決意を新たにしております。

近年、歯科補綴学を取り巻く環境は大きく変化しております。生成AIやデジタルデンティストリーの発展により、診断や治療計画、さらには研究手法においても新しい可能性が広がりつつあります。一方で、補綴歯科治療の本質は、患者の口腔機能の改善と維持を図り生活の質の向上に寄与することにあると考えております。こうした歯科補綴学の役割を踏まえ、講座としては臨床術式の継承と発展、研究成果の発信、そして次世代を担う人材の育成という使命を着実に果たしていくことが何より重要であるとと考えております。また、歯科医師国家試験において学生が十分な成果を挙げられるよう教育内容のさらなる充実を図ることは、本学部の教育使命において重要な課題であると考えております。担当分野の教育の質の向上を通じて、学生の知識と臨床能力の習得に貢献できるよう努めてまいります。

これらの取り組みは一人で実行できるものではなく、講座構成員とともに円滑な講座運営を進め、本講座の発展はもとより、日本大学歯学部、さらには歯科医学の発展に寄与できますよう精進する所存でございます。今後は学内の皆様との連携を大切にしながら、本学の教育・臨床・研究のさらなる充実に貢献してまいりたいと存じます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。（教授 歯科補綴学第Ⅱ講座）

【略歴】

平成15年日本大学松戸歯学部卒業。平成19年日本大学大学院松戸歯学研究科修了。日本大学助教、専任講師、准教授を経て、令和8年4月本学教授。博士(歯学)。47歳。

随 想

歯学部学生における 伝統の継承

井上 由大



私は職員として昭和60年4月から平成17年10月までのほとんどを歯学部学生課で勤務し、大学本部、三軒茶屋キャンパスの新設から5年間の勤務を経て、令和6年7月に本部から歯学部

に戻ってきました。また、大学卒業後から現在まで競技部の監督・コーチとして学生の活動も援助してきました。

歯学部で長い間仕事をする中で、一番印象に残っているのは、コロナ渦で一部途切れてしまいましたが、今もしっかりと引き継がれている素晴らしい学生間での伝統の継承です。

入学直後の校外オリエンテーション等で新入生同士が仲間となり、新入生の9割以上が何らかのクラブに入部し、先輩・後輩との縦のつながりを学びます。第2学年の球技大会では新入生歓迎のために第5学年の指導のもと準備の中心となり、桜歯祭・NU祭*、歯学体、さらにクラス委員会*・学生会にも関わっていきます。

リーダーズキャンプは第5学年を中心として運営され、次年度の学生関連行事・クラブ活動、学生会、クラス委員会等の方針を協議します。それに加え、次期のリーダーとなるうる学生の発掘と勧誘、さらには育成をも上級生が担っておりました。

第5学年での校外研修は、第1学年の校外オリエンテーション以降、同級生と寝食をともにする最後の機会です。同学年学生間の絆をさらに深めて、歯科医師国家試験クラス全員合格に向けての院内総務委員会へとつながっていきます。このような素晴らしいリーダーシップ育成システムが、学生の中で引き継がれており、学生課職員は、ただそれをサポートする立場でした。

この伝統の継承は、運動部の監督・コーチ中心のものとは異なり、学生主体で絆を強めます。これは卒業後、歯科医師として社会に貢献していくためにも非常に大切なものとなっていると考えます。今後もこの伝統が継承されていくことを切に望んでおります。

このような学生の活動、伝統の継承は、ご父母の援助なくしてはあり得ません、今後も後援会の多大なるご支援をお願いいたします。

* NU祭はコロナ禍以降開催されていません。クラス委員は現在、学年代表者という名称となっています。

令和8年度 歯学部予算の概要

経理長 伊藤 暁史

令和8年度歯学部予算について、特徴的な事業計画及び収支状況の概要を以下のとおり報告いたします。

1 予算計上した特徴的な事業計画

①「新カリキュラム」推進に向けた取組	《継続事業》
②本館及び3号館・4号館の計画修繕	《継続事業》
③老朽化した施設・設備等の更新	《継続事業》

2 歯学部総合予算（事業活動）の収支状況

令和8年度 歯学部総合予算	
事業活動収入合計	70億 683万円
事業活動支出合計	75億 1,457万円
基本金組入前収支差額	△5億 774万円
基本金組入前収支比率	△7.25%

令和8年度の予算概要は、上記に示したように収支は依然としてマイナスの状況が続いておりますが、前年度予算（△7.38%）と比較すると、基本金組入前収支比率は0.13ポイント改善し、マイナス幅は縮小しております。主なマイナス要因といたしましては、減価償却額が約9億7,000万円計上されていることによるものです。

本年度の予算は昨年度に引き続き教育・研究及び医療環境の整備・充実と財政状況の健全化です。

特徴的な設備投資といたしましては、研究力の更なる向上を目指し、実験動物用マイクロCTのリプレース予算を計上しております。また歯科病院では、頭部規格エックス線写真装置及びシステムの更新が予算計上されております。このほかにも各種施設・設備関係の計画的な修繕や、老朽化した機器更新のための予算が計上されております。

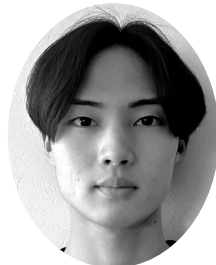
収入面においては、堅調な医療収入の増加を見込んでおります。

財政状況の健全化に向けた最優先課題は、繰越支払資金を定められた額（約12億円）まで確保することです。その先にこそ、次世代へつなぐための「将来の備え（貯金）」が可能となります。残念ながら現時点では目に見える形での貯金は出来てはおりませんが、少しずつでも資金を残すことを目指してまいります。

限りある資金を有効に活用し教育・研究及び医療環境の維持・充実に努め、またこの先の歯学部100年を目指して、予算の執行に際しましては、その重要度や緊急度を再度検討していただき、効果的・効率的に執行されますよう重ねてお願い申し上げます。

球技大会に向けて

球技大会実行委員長 池田 陸



今年度も球技大会を開催できることを大変嬉しく思います。昨年度は教職員の部が復活しました。学生と先生方・職員の方々と同じ土俵で競技に参加することで、会場全体が大いに盛り上がりました。学年や立場を越えた一体感が生まれ、球技大会の新たな魅力を感じることができました。今年度もその流れを大切に、より多くの交流と笑顔が生まれる大会にしたいと考えています。実行委員一同、思い出に残る一日となるよう全力で準備を進めてまいりますので、学生・教職員の皆さま、ぜひご参加ください。心よりお待ちしております。（第4学年）

日本パラスポーツ協会 功労章受章

令和8年2月、佐藤紀子准教授（健康科学）が令和7年度公益財団法人日本パラスポーツ協会功労章を受章しました。本章は長年にわたりパラスポーツの発展に功績のあった者に授与されるものです。佐藤准教授は視覚障害者ボウリングの国内外における普及・発展に寄与してきました。大会運営、SNSを活用した広報活動、各地域における普及活動、支援者・指導員の育成、健常者の競技団体との連携に力を入れてきました。国内外において質の高い競技大会が運営されるようになった土台作りに貢献するとともに、競技スポーツとしての視覚障害者ボウリングの特徴や発展の歴史等を論文等で発表してきました。担当する「スポーツ健康科学」では、その経験を活かし、障害の社会モデルの理解促進を図っています。



令和8年度 歯学部進学相談会

日時：第1回 6月14日(日)
第2回 7月26日(日)
第3回 8月23日(日)
第4回 10月31日(日) (桜歯祭と共催・相談ブースのみ)

※実施方法等は、歯学部ホームページをご確認ください。

Webオープンキャンパス

歯学部ホームページで、歯学部紹介や模擬授業の動画、バーチャル校内見学を配信しています。

専門学校進学相談会

日時：第1回 5月17日(日) }
第2回 6月7日(日) } 10時00分～13時00分
第3回 7月5日(日) } (予約制)
第4回 8月23日(日) }
第5回 10月31日(日) } 個別相談のみ

場所：日本大学歯学部3号館

概要

- 個別相談：本学専任教員が各種相談を承ります。
- 校内見学：講義室、実習室等を見学します。
- 体験実習：

《技工専門学校》

歯科用材料を使用し、技工操作の一部の体験ができます。(随時)

《衛生専門学校》

11：00より専任教員による実習体験を行います。

※両校とも体験実習への参加は受験生のみとなります。

NewsPlus α

☆謝恩会が開催されました

令和7年度卒業生主催による謝恩会が、令和8年3月12日(木)帝国ホテルにおいて、飯沼利光学部長、神尾政治同窓会会長代行、織井弘道後援会会長、卒業生、御父母、後援会、教職員などが出席し盛大に開催されました。

☆令和8年度ティーチングアシスタントが決定

TA…岡野 真之・西澤英里佳・西原 佑哉・星野 恵佑・新井 智美・小見山 奏・松浦 玄武・吉川 可菜・青木 真由・池上 聡一・伊藤 圭祐・稲見 亜紀・菅谷幸之介・菅谷 侑真・吉谷 実莉・加藤すみれ・名取 秀悟・屋宜 宜彦・山岸 佳子

学 事

令和8年度上村安男・治子研究費給付者

(所属・資格は令和8年3月31日現在)

生理学講座	准 教 授	人見 涼露
感染症免疫学講座	准 教 授	神尾 宜昌
薬理学講座	専 任 講 師	山本 清文

令和8年度佐藤研究費(研究)給付者

(所属・資格は令和8年3月31日現在)

(口腔科学系)		
解剖学第I講座	専 任 講 師	大橋 晶子
解剖学第II講座	助 教	今岡 紗耶
生理学講座	専 任 講 師	坪井 美行
生化学講座	准 教 授	田邊奈津子
病理学講座	助 教	角田麻里子
感染症免疫学講座	准 教 授	田村 宗明
薬理学講座	専 任 講 師	山本 清文
歯科理工学講座	専 任 講 師	平場 晴斗
衛生学講座	専 任 講 師	中井久美子
法医学講座	准 教 授	近藤 真啓
口腔内科学講座	教 授	野間 昇
歯科保存学第I講座	准 教 授	陸田 明智
歯科保存学第II講座	助 教	安川 拓也
歯科保存学第III講座	准 教 授	高山 忠裕
歯科補綴学第I講座	准 教 授	池田 貴之
歯科補綴学第II講座	専 任 講 師	秋田 大輔
歯科補綴学第III講座	専 任 講 師	本田 順一
歯科矯正学講座	教 授	納村 泰弘
小児歯科学講座	助 教	伊藤 寿典
歯科放射線学講座	助 教	森山 鮎子
歯科麻酔学講座	准 教 授	小柳 裕子
摂食機能療法学講座	准 教 授	中山 潤利
口腔外科学第I講座	助 教	長崎 真希
口腔外科学第II講座	専 任 講 師	白土 博司
(基礎科学系)		
基礎自然科学分野(生物学)	助 教	小林 理美

歯学部行事予定

4月 3日(金) 新入生オリエンテーション
4日(土) 開講式及び新入生オリエンテーション
6日(月) 第1～4学年前期授業開始
11日(土) クラブガイダンス
17日(金) 第1学年オリエンテーション
18日(土) 第1学年オリエンテーション・実験動物慰霊祭
24日(金)・25日(土) 健康診断
5月14日(木) 球技大会
6月 6日(土) 後援会総会
14日(日) 第1回歯学部進学相談会
7月26日(日) 第2回歯学部進学相談会

国家試験等

＝第119回歯科医師国家試験＝

試験は1月31日(土)・2月1日(日)に実践女子大学 渋谷キャンパスで行われ、本学部の新卒の受験者は102名でした。

＝令和7年度(第11回)歯科技工士国家試験＝

試験は2月15日(日)に行われ、本校から13名が受験しました。

＝第35回歯科衛生士国家試験＝

試験は3月1日(日)に行われ、本校から26名が受験しました。

課程博士

(令和8年3月25日付け)

- 歯髄炎に起因した顔面部異所性疼痛に対する三叉神経節内Nav1.7陽性ニューロンの役割
北條 泰
- 拘束性ストレスと卵巣摘出による口腔内灼熱症候群モデルマウス作製とピオグリタゾン大槽内投与の効果
米本真実子
- Plastic changes in primary somatosensory and motor cortices of the model mouse with trigeminal neuropathic pain
(三叉神経障害性疼痛モデルマウスにおける一次体性感覚野と運動野での可塑的变化)
北野 晃平
- Utility of relative computed tomography values for quantitative assessment of mandibular bone invasion in patients with ameloblastoma
(エナメル上皮腫患者における下顎骨浸潤の定量的評価に対する相対CT値の有用性)
菅谷佑之介
- The role of matrix metalloproteinase 9 in the trigeminal ganglion in tongue cancer pain
(舌癌性疼痛における三叉神経節内マトリックスメタロプロテアーゼ9の役割)
高橋 亮輔
- A study of the effects of periodontopathic bacterial metabolites on cell death induction in human polymorphonuclear leukocytes
(歯周病原細菌の代謝産物がヒト多形核白血球の細胞死誘導に及ぼす影響の研究)
堀越 大地
- テトラヒドロピオプテリンによる破骨細胞形成にはNF κ Bが関与する
我喜屋 佑
- 歯面とレジンセメントの間隙への大気圧プラズマ処理がリン酸エッチング剤とレジンセメントの浸透性および接着強度に及ぼす影響
木村 浮子
- 接触重合がユニバーサルアドヒーズシブ応用型自己接着性レジンセメントの象牙質接着性に及ぼす影響
青木 良太
- Effect of different pretreatment agents on the bond performance of a resin luting cement to saliva-contaminated tooth surfaces
(唾液汚染後の歯面処理法の違いがレジンセメントの接着性に及ぼす影響)
岩間 弘明
- Dentin bond durability of different adhesive systems containing GPDM functional monomers
(機能性モノマー GPDMを含有する異なる接着システムの象牙質接着耐久性)
小池 慶
- 表面性状の違いがユニバーサルシェードコンポジットレジンの色調適合性に及ぼす影響
林 佳奈
- Effect of pretreatment agents on the bond performance of resin luting cement to saliva-contaminated resin core foundation
(表面処理剤の塗布が唾液汚染された築造用レジンへのレジンセメントの接着性に及ぼす影響)
林 康二
- Influence of different etching modes on bond durability and morphological features of different types of resin luting cement systems
(エッチングモードの違いが異なるレジンセメントシステムの接着耐久性および接着界面の微細構造に及ぼす影響)
渡邊 諭
- Development of root canal obturation techniques using prototype obturators in conjunction with a resin based hybrid sealer and a sealer containing bioactive glass
(レジン系シーラーおよび生体活性ガラス含有シーラーを用いた試作オブチュレーターによる根管充填法の開発)
正覚 泰佑

- Advanced glycation end products induce inflammatory mediators in Ca9-22 cells via RAGE/TLR4-mediated PKC-NF- κ B pathway
(終末糖化産物はRAGE/TLR4を介したPKC-NF- κ B経路によってCa9-22細胞の炎症性メディエーターを誘導する)
小野美紗恵
- Effect of alkaline extract of *Sasa senanensis* leaves on *Porphyromonas gingivalis*-induced respiratory inflammation
(*Porphyromonas gingivalis*により誘導される呼吸器炎症に対するクマザサ葉由来アルカリ抽出物の効果)
高木 朝子
- Development of a spheroid-based coculture system of *Porphyromonas gingivalis* and head and neck squamous cell carcinoma using Hippo pathway inhibition
(Hippo経路阻害とスフェロイド培養を用いた*Porphyromonas gingivalis*と頭頸部扁平上皮癌との共培養系の確立)
中島由梨佳
- LIPUS induces osteoblast differentiation in MC3T3-E1 cells via P2X7-NFATc1 pathway
(LIPUSはMC3T3-E1細胞のP2X7-NFATc1経路を介して骨芽細胞分化を誘導する)
正井 佑篤
- Involvement of trigeminal ganglion-trigeminal spinal subnucleus oralis pathway in orofacial neuropathic pain development
(三叉神経節-三叉神経脊髄路核吻側亜核の口腔顔面神経障害性疼痛発症への関与)
井手唯季加
- Effects of allyl isothiocyanate on the growth and pathogenicity of *Candida albicans*
(アリルイソチオシアネートが*Candida albicans*の増殖と病原性に及ぼす影響)
西浦 英亀
- Association between oral health and nutritional intake among elderly denture wearers
(高齢の義歯装着者におけるオーラルヘルスと栄養摂取の関連性)
吉田 貴政
- Bone augmentation using dedifferentiated fat cells-loaded cotton-like absorbable bone graft materials implantation
(脱分化脂肪細胞を播種した綿形状吸収骨補填材が骨造成に与える影響)
井上 陣
- Elucidation of the mechanism of anti-inflammatory effect of IL-1R2
(IL-1R2の抗炎症効果メカニズムの解明)
加藤 勲
- Influence of surface treatments on shear bond strength of resin luting agent to zirconia using a pre-sintered coating approach
(焼結前にシリカコーティングを行ったジルコニアに対する表面処理がレジン系装着材料とのせん断接着強さに及ぼす影響)
新井 聡美
- Influence of smoking on *ELOVL2* methylation levels in buccal mucosal cells and the accuracy of epigenetic age estimation
(頬粘膜細胞における*ELOVL2*のメチル化およびエピジェネティック年齢推定の精度に対する喫煙の影響)
堤 貴通
- Dual imaging plateによる口内法X線撮影における空間分解能およびノイズの検討
佐々木辰彦
- Synaptic characteristics of descending inputs from the insular cortex to the nucleus of the solitary tract in the rat
(ラットにおける島皮質から孤束核への下行性投射のシナプス特性)
若林 杏美
- Interferon- γ signaling in the trigeminal ganglion contributes to orofacial neuropathic pain in rats
(ラットの三叉神経節内インターフェロン γ シグナル伝達は神経障害性疼痛に寄与する)
小林 桃代
- Alterations of central sensitization associated with chronic orofacial pain
(慢性口腔顔面痛に伴う中枢性感作の変調)
滝澤 慧大

お知らせ

寄付金の受け入れ

= 研究助成金 =

50万円	ULTRADENT JAPAN株式会社 歯科保存学第I講座へ (代表取締役社長 鍛地 裕司 殿)	12.11
50万円	JCRファーマ株式会社 病理学講座へ 歯科保存学第I講座へ (代表取締役社長 芦田 信 殿)	12.15
200万円	株式会社ジーシー R & D 歯科保存学第I講座へ (代表取締役社長 篠崎 裕 殿)	2.27
50万円	クラレノリタケデンタル株式会社 歯科保存学第I講座へ (代表取締役社長 山口 里志 殿)	2.27

= 佐藤奨学・研究基金 =

2万円	飯沼 かおり 殿	11.21
-----	----------	-------

= 特別寄付金 =

10万円	松崎 哲 殿	12.18
------	--------	-------

編集後記

コロナ禍を経てiPad授業が日常化し、今やAIも学修に欠かせない存在となりました。大切なのは、これら多様なツールを主体的に活用し、自分にとっての「最善」を追求し続ける姿勢であると感じています。さて、今号の見どころの一つは、新たに就任された七名の教授陣によるご挨拶です。各専門領域で卓越した実績を持つ先生方の参画は、本学部に新たな活気と多様な視点をもたらしてくれるでしょう。新入生、在学生の皆さんにとっても、これからの学びの道標となる心強いメッセージが詰まっています。私自身、在学生、卒業生、そして教員と立場を変えながら、桜歯ニュースを通じて日本大学歯学部の「今」に触れる時間を大切にしてきました。本誌が、新入生の期待に満ちた門出を祝し、在学生の皆さんの日々の歩みを映し出し、そして卒業生と日本大学歯学部をつなぐ大切な絆としてあり続けることを切に願っております。

(K.M)



表紙の写真は、佐藤紀子先生(健康科学分野)にご提供いただきました。